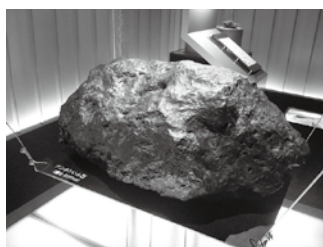




「ご存じですか? 田原隕石」

2月15日、ロシアのチェリャビンスク州に隕石が落下し、千人を超える負傷者が出ました。インターネットやテレビの映像で、落下の様子を見られた方も多いのではないのでしょうか。空を横切る明るい輝き、一瞬にしてまぶしく照らされる街並み、すさまじい衝撃波。アメリカ航空宇宙局(NASA)の推定によれば、直径17メートル、約1万トンの小惑星が、秒速20キロメートルという猛スピードで地球に衝突したと思われる、とのこと。

もっと小さなものですが、実は三河地方にも隕石が落ちたことがあります。今からちょうど22年前、平成3年3月26日に田原町(現田原市)に落下したそれは、「田原隕石」と命名されました。



隕石を見分けるヒントは、「重さ」「表面」「磁石」です。どうぞ生命の海科学館で、実物に触れて、じっくり観察してみてくださいね!

た。ですが、田原隕石のことをご存じの方は多くないようです。出港したばかりの船の甲板に落下したため、大部分が海に捨てられてしまい、残ったかけらもそのまま県外に持ち出されてしまったからです。また、このときは幸いけが人もなく、それどころか落下を目撃したという情報もありませんでした。港で働いていた人々や船の乗組員さえも、隕石の落下に気付かなかったのです。

このように、小規模で私たちが気付いていない隕石は、きっとたくさんあるのかもしれない。田原隕石の破片も、もしかしたら三河地域のどこかにまだあるのかも……

小惑星の破片である隕石は、手にとつて顕微鏡で観察できる、宇宙のかけらとも言えます。みなさん、「もしかしたら隕石では!?」と思われる石を発見したら、ぜひ科学館にご連絡くださいね。



蒲郡のシンボル・竹島に鎮座する八百富神社は、平安時代の養和元年(1181)の創建で、蒲郡開発の祖・藤原俊成が竹生島から勧請したという言い伝えがあります。約300年前の宝永4年(1707)の序をもつ『三河雀』という地誌には、「日本七天女」として、

- ・江の島(神奈川県)
- ・宮島(広島県)
- ・天河(奈良県)
- ・竹生島(滋賀県)
- ・布施(千葉県)
- ・野尻(長野県)

と並べて「三州竹島」が挙げられています。他の地誌にも風景がよいと書かれており、竹島は古くから名所として近隣に知られていたようです。享保20年(1735)に「八百富神」の御神号を賜っている。

～竹島の弁天様の御開帳～

ます。

巳年つまり今年は、八百富神社大祭の年で、御開帳が行われます。この行事は昔から催されており、江戸時代末期の弘化2年(1845)の時の様子を元に書かれたと考えられる「竹島参詣滑稽鄙栗毛」という書物が、神社に伝わっています。どこかで見聞きしたようなタイトル……と思われる方。そうです、この物語は十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のパロディです。登場人物も、本家の弥次さん喜多さん2人の腹違いの息子の茂治さん仁多さんが竹島の御開帳にはるばるやってきたという設定で、タイトルに「滑稽」とあるように、おもしろおかしい参詣物語となっています。

5月3日から5日まで、弁財天開扉拝観が行われるそうです。市文化財に指定されている「木造弁財天像」を間近で拝める絶好の機会です。ぜひどうぞ。



参詣物でも楽しめる楽しい挿絵と色つきのところどころがあります。